

追い込み網からの推定生息密度は、6月～8月にかけて最大6.3尾/100㎡となり、目視観察によると、7月に最大4.3尾/100㎡となる。イソフェフキは前述したように出現するフェフキダイ類の大半を占め、表-8でもイソフェフキの生息密度の変化とフェフキダイ類全体の生息密度の変化はほぼ一致する。これから第二群の来遊が完了した6月後半から、第一群が逸散する8月初め頃までが最も生息密度が高い時期といえる。

イソフェフキの胃内容物を図-7に示した。

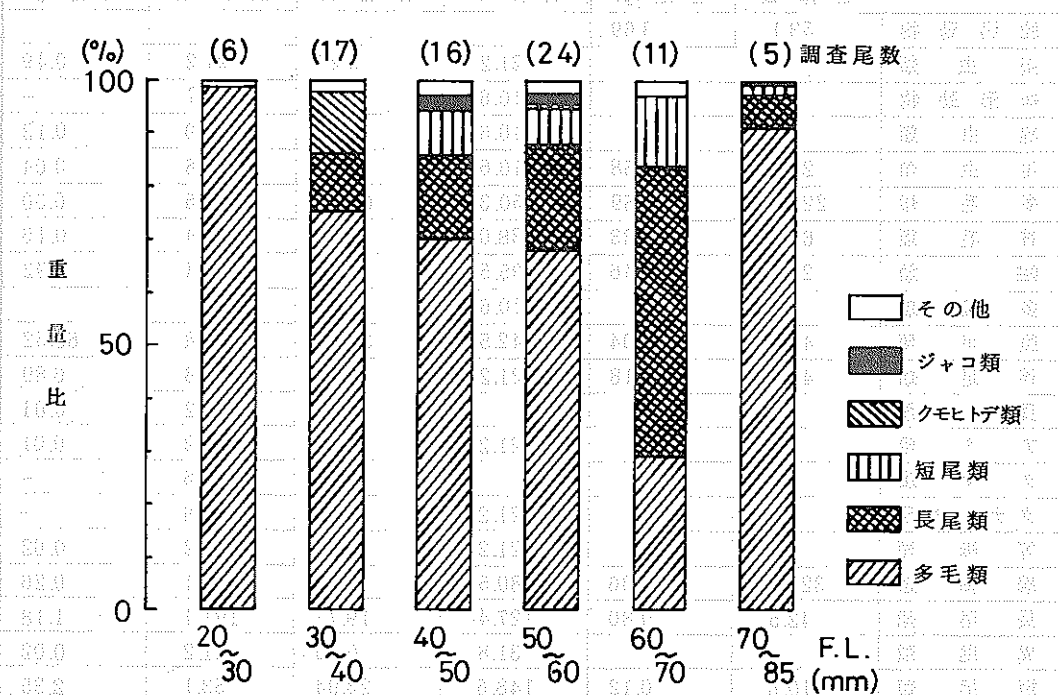


図-7 イソフェフキ幼稚魚の食性

漁獲された尾長20～85mmのイソフェフキの胃内容物中最も多いものは多毛類であった。特に20～30mmサイズの胃内容物のほとんどは多毛類であった。他のサイズでも60～70mm以外では、ほぼ70%以上であった。30mm以上では、他の餌料もかなりの割合で出現し、多毛類に次いで長尾類が多量に摂餌されていた。また40mm以上では短尾類が多毛類、長尾類に次いで多く出現してくる。マダイ幼稚魚では成長に伴う食性の変化があり、今回漁獲したイソフェフキと同サイズのマダイではヨコエビ類を中心とした食性で、今回の大型個体ぐらいで多毛類を摂餌しだす(立石・1976, 畔田他・1980)。しかしイソフェフキでは20～85mmサイズでは一貫して多毛類が最も重要な餌料であり、主餌料の転換はなかった。食性は、餌料生物量、その種の生息量などの変化により年による差もあるので、単年度の調査結果だけから判断するのは危険である。来年度以降の継続的な調査の必要があろう。

3. 底生動物調査

図-1に示したst.7付近の海草の最繁茂部で例年実施している底生動物の採集を行なった。採集は0.5mm目の標準ふるい(径20cm)を逆さにして海草の上からかぶせ、ふるいの枠の深さ(約6cm)まで海底下に押しこみ、ふるい内に入った底土を海草ごと取りあげて行なった。前年度まで

は1mm目のふるいを用いてふるい分けをしていたが、線虫類が1mm目では殆ど抜け出てしまうので今年度は0.5mm目を使用した。3地点での採集を行ない、これを平均化して底面積1㎡あたりの値に換算したのが表-9である。表-9にはここ3ヶ年の採集結果を示してある。

表-9 底生動物の生息量

分 類	1980年6月4日		1981年6月18日		1982年6月9日	
	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)	個 体 数	重 量 (g)
腔 腸 動 物	53.1	3.69				
渦 虫 類			21.2	2.24	21.2	0.49
紐 形 動 物			10.6	0.04	63.7	-
線 虫 類			10.6	-	1518.0	0.12
星 虫 類	21.2	0.58	10.6	-	10.6	0.04
多 毛 類	222.9	6.69	350.3	60.53	785.6	6.50
貧 毛 類	63.7	3.33	138.0	1.67	265.4	0.16
蛭 類	21.2	0.46	95.5	1.87	265.4	4.92
多 殻 類			10.6	9.23		
腹 足 類	42.5	47.04	42.5	37.81	169.8	60.32
斧 足 類	42.5	1.18	21.2	2.19	31.8	6.89
貝 虫 類					21.2	0.01
ア ミ 類			21.2	0.04	21.2	0.01
ク マ 類					10.6	-
タ ナ イ ス 類			21.2	0.06	10.6	-
等 脚 類			21.2	0.06	21.2	0.62
端 脚 類	329.1	0.36	180.5	0.20	467.1	0.26
長 尾 類	42.5	0.80	127.4	19.77	191.1	1.18
異 尾 類			31.8	0.49	21.2	0.02
短 尾 類	10.6	0.12	148.6	23.94	53.1	2.35
クモヒトデ類	42.5	11.49	21.2	1.45	10.6	1.65
ウニ類	21.2	2.15			10.6	0.73
魚 類			10.6	0.21		
不 明	42.5	0.08	10.6	0.40	10.6	0.22
合 計	955.5	77.97	1,273.9	161.98	3,980.6	86.67

数字は1㎡当たりの値

重量は湿重量

今年度は、0.5mmとこまかいふるい目を使用したため、個体数は前2ヶ年より2~3倍多くなっている。特に多くなったのは線虫類である。それを除くと個体数では多毛類・端脚類が多く、重量では腹足類・多毛類が多いという特徴はここ3年間変わっていない。また表-10にここ4年間の底生動物調査で採集した貝類を示した。所属不明を除くと計28種を採集したが、その中でカネコチグサ、ウキヅツ、カブラツキガイ、アマオブネ科の一種、キヌシタダミ、ヒメニッコウガイなどが多かった。